

ゆめ通信

地域づくり考房 

{ Vol.053 }
2024 3.21

特集 ONE TEAM プロジェクト・あるぷすタウン

学生プロジェクト活動紹介(YUME column) / やきいも会 / こどもあそび隊・キッズスポーツスクール / ゆにまる



地域づくり考房「ゆめ」
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の
全学生を対象に、学生と地
域住民とのふれあいを大切
にして取り組む地域連携活
動の支援を行っています。

ごあいさつ

現代は、移り変わりも早く、変化にとんだ時代であるといわ
れています。新しい技術が普段の私たちの生活に浸透する中で、今
後、私たちの暮らしも変わっていくことになるのかもしれませんが。

しかし、そうした時代に生きる私たちだからこそ、「ひととひと
のつながり」を大事にしていきたいと考えます。技術に使われるのではなく、ひとが主体となって技
術を使いこなしていくためには、「何に向けてそれらを使いこなしていくか」という方向性を改めて問
うていくべきです。そもそも、技術は、ひとが幸せに生きていく方向を目指して高められていくべきも
のですが、それと同時に、それは「所与のもの」として外的に定められるものではなく、他者との出
会いや関係性の広がりの中でこそ定まってくるものです。地域づくり考房『ゆめ』に関わる学生の皆
さんが、他者との豊かな出会いの中で、それらの方向性を探究していくことを期待しています。



学校法人松本学園
松本大学

ワン チーム ONE TEAM プロジェクト

概要

地域づくり考房『ゆめ』では、学生の地域活動の「第一歩」として、「ONE TEAMプロジェクト」を企画しています。地域に生きる人々の想いを知ることを目的に、様々なテーマのもと活動しています。今号では、昨年9月から今年2月までに行った活動を紹介します。



10月「秋の安曇野を巡るバスハイク」



晴

晴れ渡る秋の日、ゆめ学生と地域の皆様は大型バス一杯の夢抱えサントリー大町工場と大町山岳博物館を回り、おいしい水と食事、異世代の皆様との会話を味わい、最高の一日を楽しみました。自然豊かな北アルプスで20年の時を経て生まれた天然水、信州に生まれ生きた動物たちをリアルに再現された大町山岳博物館、教科書で学んだ学生が地域の人と語り合いながら和やかに「温故知新」交流となりました。



学生の感想



今回バスハイクは2度目の参加でしたが、やはり今回もとても楽しかったです。自分だけでは行く機会がないような初めての場所に行けたことももちろん楽しかったのですが、それ以上に自分と同じ学生だけではなく地域の方と一緒に行ったことがとても楽しかったです。自分たちだけだったら、「きれいだね」「大きいね」などの感想で終わるような場面も地域の方と交流することで「これは大きいアンモナイトだね。うちにもあるけどこんなに大きくないよ」「〇〇年前はもっとね・・・」などと自分たちの簡単な感想に加えて地域の方

から知識を得ることができました。前回同様に、教えてもらうことが多かったのですが今回のサントリーの場面では、自分の地域の方に知っていることを話すことができました。地域の方が私の話を聞いて、「あれ、そうなの!」「それははじめて知ったな」などとリアクションしてくれるのがとても嬉しかったです。教えてもらうばかりではなく、自分が知っていることも教えられる、お互いに教え合えるというのはとても素敵なことだと感じました。これが、地域と交流することの良さ、魅力ではないかと思いました。(教育4年 福永)

11月 「上土で映画を楽しむ会」 を通じて知る地域の魅力



地

地域活動を行う時には、その地域に深い愛着を持つことが大切だと思います。それは人であり、場所であり、文化でもあります。上土はそのような想いを学生が持ちながら活動を行っている地区です。上土は映画の街として多くの人たちから愛されてきました。今年も11月25日に「上土で映画を楽しむ会」が開催されました。当日はゼミの協力で提供された映画ポスターや松本の街の古写真などの展示を行い、上土劇場で「バック・トゥ・ザ・フューチャー」の上映会を行いました。上映の後、映画音楽DJのジョニー志田さんを変えて、地域の人たちと感想や思い出を語り合いながら、上土の街づくりについて考えてみました。近代化の中で街の個性が失われてきています。参加した学生たちは消えてはならない大切な街の資源をどう守りながら活かしていくかを、映画をきっかけに考えるようになりました。上土における学生の地域活動が、若者らしいアイデアの中から更に進むことを期待しています。



学生の感想

〇



映画では初めてバック・トゥ・ザ・フューチャーを見て、志田さんの注目ポイントを覚えながら様々な発見がありました。トークショーでは対面で志田さんとお話する機会があり、映画・お話を通してこの上土という場所をどう次の世代に受け継いでいくのか、将来自分が何を目標として働きかけていくのかを学ぶことができました。（総経4年 青木）



2月 「もち米と四賀地区を結ぶ憩いのサロン」

今

今年度最後の「ONETEAM」が2月29日（木）に松本市四賀地区で行われ学生9名他、四賀地区の住民など約35名が参加しました。今回は、「保福寺公民館」と「両瀬公民館」の2か所に分かれて実施しました。学生が5月に田植え、9月に稲刈りをしたもち米を、四賀地区の皆さんの手ほどきを受けて共



同作業により美味しい“お赤飯”を作ります。蒸し加減や味付け、小豆の煮かたなど、まさに職人技ともいえる極意を教わりながら終始和やかに作業を行いました。

学生も「我が家のやり方と違う」など新しい発見が多々あり、その甲斐あって美味しいお赤飯へと生まれ変わりました。地元の方手作りのお漬物や郷土料理など“家庭の味”も添えられ、学生とお年寄りの会話も弾み、四賀の味と人情を腹いっぱい堪能し、充実したひと時となりました。

今後も、定期的な交流を約束し四賀地区を後にしました。

学生の感想

〇



秋ごろに棚田で稲刈りをし、もち米を収穫しました。その時のお米をおこわにし、地域の方と食べるのが今回のイベントでした。地域の方とのお話の中で、昔使っていた有線放送の機械を見せていただきました。ONETEAMでは現代の便利な機器からあえて離れ、田舎のコミュニティで過去からの歴史ある方法や技術などを学ぶことができ、文字だけのコミュニケーションではなく、地域住民が集まり本物のコミュニケーションをすることができました。（スポ4年 志賀）





学生プロジェクト活動紹介

梓乃森祭 大盛況!



10月14日・15日に大学祭「梓乃森祭」がありました。5年ぶりの一般公開、模擬店も多く出店し、大変賑やかな2日間でした。『ゆめ』の学生も張り切って準備に取り掛かり、各プロジェクトの活動紹介をする展示教室と、お好み焼きを箸に巻いた「はしまき」を模擬店にて出展。手作りのポップや模造紙を作り、準備の段階から学生同士の絆が深まっているように感じました。『ゆめ』の展示教室や模擬店は大変賑わい、学生もいきいきと楽しそうでした。寺子屋も大学祭に合わせて実施し、ハロウィンの

仮装や工作をして子どもと学生が大学祭を一緒に回りながら楽しんでいました。学年や学科を越え、繋がりが膨らんだ大学祭となりました。



学生の感想



今年度の梓乃森祭でプロジェクトごとの活動紹介のパネルの展示と模擬店での「はしまき」の販売をしました。各プロジェクトのリーダーで構成されるリーダー会議では、展示の配置を考えたり、「はしまき」の販売方法を模索したりして、当日までの準備を進めました。当日はゆめの様々な方々に模擬店の運営をお手伝いしていただき完売することができました。(観光3年 鈴木)



子どもたちへ本のプレゼント サンタ・プロジェクト・まつもと

クリスマスを自宅で過ごすことのできない子どもたちへ本を贈る「サンタ・プロジェクト」を今年度も実施しました。学生は、本を購入してくれた市民サンタさんへ渡す「サンタクロス認定証」のデザインや、担当書店・贈呈先との連絡、贈呈箱の装飾等を行いました。また、本学生協も協力書店の一つとなっており、学内での周知も力を入れようと、学内用のポスターを作成したり、生協の本購入スペースをクリスマス仕様に装飾をする等、工夫を凝らしました。

市民サンタさんからの想いが寄せられた本を贈呈先ごとに仕分けし、子ども

たちへ届けた時、これまでの準備や様々な人の想いが届いたような気持ちになりました。



学生の感想



今年度は宣伝活動を積極的に行ったことで、より多くの学生にサンタプロジェクトの活動を認知してもらうことができました。また、母団体の方々との会議を通して、活動に対する熱い思いを知ることができたため、よい刺激になりました。(栄養2年 百瀬)



雪の中で深まる交流 ええじゃん 栄村 どうろく神



栄村小滝集落での恒例行事、「どうろく神」へ参加しました。前日に栄村に入り、古民家を改築した住民の拠点「となり」へ宿泊し、書初めやレクリエーション、カレー作り等、学生同士で交流を深めました。カレーには小滝米をいただき、夏に田植えをし秋に稲刈りをしたことも思い出しながら、おいしくいただきました。この日は雪が降っており、翌日の朝早くに雪かきをする学生もいました。

どうろく神当日は快晴で、子どもたちとお賽銭を入れる雪像を作ったり、厄投げを行うステージを雪で作ったりしました。前日に降った雪がふかふかで、子どもたちと雪遊びを楽しみながら親交を深め、地域の方とも来年度一緒にこんなことがしたいね、と話が盛り上がりました。栄村に行く度に地域の方のあたたかさに触れ、学生も充実した時間を過ごしています。

学生の感想



冬の絶景の中で子ども達と楽しく雪像を作りながらも雪遊びをしてヘトヘトになる活動でした。しかし、普段自然の中で遊ぶ機会が少ないためかなりリフレッシュできました。雪像づくりの他にも、厄を払うみかん投げ、自分たちで作るカレー、書初めなど楽しいイベントがたくさんあり、充実した日を過ごせ、楽しい2日間でした！

(総経3年 奥原)



新たな居場所として広がる 「ひといき」



新村地区の住民との交流を目的に続けている「茶房 ひといき」は、毎月1回を目安に公民館を中心に時々会場を変えながら続けています。「茶房ひといき」は5年前に「みすゞ屋」という大学近くの店舗を借りて始まった取り組みです。コロナ渦の期間も学生たちは様々な連絡方法を駆使しながら交流を続け、3年前からは名称を「茶房ひといき」に代え、さらに参加者を増やしたくさんの方々を知り合うことができました。常連の方も多く、毎月地域から20人以上の方が参加されています。コーヒーを飲みながらの会話は、昔の思い出話から家庭や大学での出来事、学生の進路まで様々な話題に花が咲きます。クイズ、ゲーム、体



操、歌、演奏、踊りなど、いろいろな企画を学生と地域の方々がともに考え作りだしています。こうして「茶房ひといき」は住民と学生がともにつくりあげる新たな居場所としての役割を持ちながら広がっています。



学生の感想



地域のみなさんをはじめ、多くの方に支えていただきながら、私たち学生と地域全体が楽しめる『居場所』づくりができました。座学では得られない学びと人の温かさを知ることができ、活動を続けられたことに嬉しさと誇りを感じます。ひといきでできたつながりは人生の宝物です。感じた思い、得た学びを活かして今後も地域に貢献できるようにしたいです。本当にありがとうございました。(観光4年 小林)

働いて通貨「YUME」を稼ぎます



5年ぶりに



子どもたちの笑顔が戻る！

学生プロジェクト 「あるぷすタウン」

「今日はお母さんの誕生日だからお花の活け方を学んで完成したらあげるんです」「普段体験できないことができて、とても楽しかったです。しかもそのお金で買い物ができる楽しかったです」5年ぶりの「あるぷすタウン」に小学生の学ぶ姿と笑顔が帰ってきました。今年は保護者も一緒に入って買いました。「家の子は最近楽しそうに学校に行けてなかったけど、今日はほんとに笑顔が見られて良かったです」「職業体験もさることながら、お金を稼ぎ、税金を払うことや稼いだお金を使って買い物や体験といった、社会生活の一端を体験することができて、とても有意義でした」さらに1月の能登半島地震をうけて、この「タウン」にも災害を想定した場所が設定されました。ヘルメットをかぶった自衛隊員と警察官を体験した小学生は、復旧作業に統制の取れた隊列を組んで全力で作業をしていました。まさに大人さながらの防災訓練

でした。その他、五平餅とたこ焼きブースが新設され職人なみに焼き上げる姿はお見事でした。スーパーでは事務用品・菓子・パンなどを稼いだお金で買う小学生が列をなし、名残惜しく楽しんでいました。

大学に入り活動ができなかった学生は、5年前の記録や写真、先輩の話を聞きながら試行錯誤の実践でしたが、今回の特徴として、ゆめ所属の他のプロジェクトが個々の活動を活かしたブースを作り協力してくれたこと。メンバー以外の当日スタッフとして大勢の協力を得たこと。地域の皆さんが喫茶ブースや学生の賄い飯を作ってくれたこと。保護者や地域の方が多数「タウン」に来てくれたことなどがあげられます。雪と寒さの中、準備から片付けまでリーダー・メンバー、協力者の団結力とパワーが子供たちに熱いパワーを送ることができた2日間でした。

たくさんの『ゆめ』も乗せて出発進行



本日現場検証について話しています



おいしいコーヒーも淹れてお客様に提供



左よゝし。異常なし



運営スタッフ一同満足の笑顔です。

ギョウザの皮で
ピザ作り体験



心を込めて磨きます。
清掃はらせてください





初めての生花体験



防災への意識
が高まりました



キッズホッケーの
メンバーが
プロを育成します



おいしい五平餅を
焼いています



初めての
カンナ削り体験



結婚式の司会に
やや緊張気味です



新郎新婦は大学生、両親はゆめ職員、プランナーと運営は小学生でした。地域の方も応援しています



カメラマン体験

高級なカメラを前にドキドキ

学生の感想



あるぶすタウンは5年ぶりの開催となり、メンバー全員が何も知らない状態からスタートしました。そんな中で過去の資料や記録を探りながら、現メンバーで最大限できるあるぶすタウンはどんな事を1年間考え実現に向けて取り組みました。最初は、何をどうすればよいのか、不安やわからないことばかりでしたが、ご理解のあるゆめ職員さん、経験豊富な企業さんや『ゆめ』の支えと励ましのおかげで、あるぶすタウンは実行できました。今のメンバーで私達らしいあるぶすタウンを実行できたことは、今後大きな自信に繋がります。参加した親子、企業さんからもたくさんの感謝と来年への期待を頂けたこと本当に嬉しく思います。そして、これまであるぶすタウンに関わった多くの方々へ、心より御礼申し上げます。

(あるぶすタウンリーダー 観光3年 飛鳥)

有難うございました



田川小学校 やきいも会

11月30日に田川小学校で1～3年生を対象にやきいも会が実施されました。やきいも会に使用した落ち葉は、松本市渚の松林邸のケヤキの落ち葉拾いにて集めたものである。子どもたちは落ち葉拾いにも参加し、ケヤキについて学んだり、地域の方と交流を深めていた。やきいも会当日は学生が15名程度参加し、子どもたちと鬼ごっこやかくれんぼをし、やきいもが焼けるまでの間一緒に遊んでいた。子どもたちの遊びたい内容を聞きグループに分かれる等工夫をしていたり、地域の方々とも積極的に会話をし、和気あいあいとした雰囲気だった。



やきいも会はコロナ禍の間実施できていなかったため、地域の方も「やっとできたね」と喜びの表情を浮かべていた。地域で大切にしている行事に関わらせていただき、地域の方の想いにも触れる機会となった。

学生の感想



田川小学校で行われた焼き芋大会に参加させていただきました。1～3年生の準備した芋を焼き火に入れた後、一緒に鬼ごっこをしたりお話をしたりして子どもたちと交流しました。風が強くとっても肌寒い日ではありましたが、子どもたちは積極的に遊びに参加してくれて、元気いっぱい子どもたちと駆け回るうちに寒さなんて全く気にならなくなりました。交流を喜んでくれた子どもたちを見て私自身もとても楽しく活動することができました。また機会があれば参加したいです。
(観光1年 小牧)

今年度の活動を振り返って こどもあそび隊・キッズスポーツスクール



2023年度の「こどもあそび隊・キッズスポーツスクール」の活動は例年通り、地元の小学生を対象としたキッズホッケー、未就学児を対象としたイベントを実施しました。

新型コロナウイルスによる活動の制約が無くなったこともあり、キッズホッケーは新村および和田の両児童館で年間約20回活動ができました。ホッケーの楽しさはもちろん、仲間や道具、ルールの大切さなどを理解する貴重な時間にもなりました。

また、1月14日(日)には0歳から6歳までの未就学児を対象としたイベントを実施し、10名の子どもたちが参加しました。お正月にちなみ「福笑い」「すごろく」などを実施し、保護者も一緒になって盛り上がり、笑顔が絶えないひと時となりました。

学生の感想



今回は正月行事に関わる内容でイベントを実施しました。学生間で子ども達の姿を想像しながらイベントの計画を行い、子ども達が楽しめる内容を考えていきました。当日には学生が協力し、子ども達の笑顔が見られる良いイベントになったと思います。また、子ども同士のトラブルにも柔軟に対応する姿が見られ、状況を冷静に判断し対応していく力が身に付いていったと実感しています。
(教育4年 三井)

広がる 「ゆにまる」の活動

本学と商業高校が共催して行う販売会「デパートゆにっと」は始まってから10年が経ちます。その販売と「マーケティング塾」の学習をサポートしている有志グループが「ゆにまる」です。高校生とともに活動するため、参加した学生は高校を卒業しても母校の後輩との交流を続けることができます。「ゆにまる」は高校生の学習サポートだけではなく、最近では独自の販売活動や地域交流にも力を入れています。昨年からは地域名店カレーの販売促進を、上土地区を中心に行っています。高校生との交流、地域住民との交流などを通じて更に地元資源の開発にも目を向けていきたいと、参加メンバーは知恵を出し合いながら意欲的に活動を広げようとしています。



学生の感想



今年度の活動の中で特に印象に残っているのは、朝日村で行ったピーツの収穫体験と、ポルシチを実際に作って食べたことです。学生は、村の方々と話し合いや勉強会を通して村の魅力や課題について学び、商品開発や村のPR活動などに取り組んできました。当事者意識を持って村の方々と共に活動してきたことで、地方が抱える問題の難しさをより実感しました。
(観光1年 小林)

編集後記

元日に最大震度7を記録した能登半島地震、翌2日には羽田空港での航空機衝突事故など、お正月気分も吹っ飛ばす予想すらなかった2024年のスタートとなった。これに加え、ここ2～3年ほど円安が続き、それに伴う物価や燃料費等の高騰が我々の生活を大きく苦しめている。

そんな中、今季から大リーグ・ロサンゼルス・ドジャースでプレーする大谷翔平選手の連日のニュースには、私たちの心を明るく前向きなものにしてくれる。今季は打者のみに専念だが、シーズン通しての活躍も非常に楽しみである。

学生にとっても4月から新年度がスタートする。学生生活は、ひとりひとりが主役である。それぞれが笑顔に満ち溢れる「笑タイム」に期待し、その姿を応援したい。
(聖樹)

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階
開館日時：月～金 10:00～18:00
TEL: 0263-48-7213 FAX: 0263-48-7216
E-mail: community@t.matsu.ac.jp



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>



CHINIKOHUINDOUSUYUME